未来へと続くラブレター

中川龍太郎 監督／インタビュー

interview :

―映画制作のきっかけは

高校生の頃、朝日町の冬の情景を書き出した詩集「冬に至る都」を出版したことが、創作活動の原点になっています。詩の創作を続けていく中で、文中に著した美しい景色を、言葉だけではなく、映像でも撮りたいと次第に思うようになり、大学生の頃から自主制作で映画を撮り始めました。

―朝日町への思いをきかせてください

父の実家がある朝日町には幼少の頃から何度も訪れていましたが、映画の制作を通し、朝日町に触れたとき、自分のルーツとも呼べるこの町のことをほとんど知らなかったのだということを痛感しました。
映画の制作を通して得られる喜びのひとつに、新たな場所や人との出会いがあります。これからも、私の第二のふるさとである朝日町と関わりを持ち、たくさんの出会いを経験していきたいと思っています。

―映画制作に関するこだわりは

私は映画を制作するうえで、「場所」に強いこだわりを持っています。どんなに思い入れのある場所や建物であっても、時間が経過することによって、いつかはなくなってしまいます。そんな

場所を映画にすることで、ずっと残しておきたいという強い思いをもって制作に臨んでいます。"過去にあった"また、"現在ある"場所を未来へと続くラブレターとして、多くの方に続けていきたいと思います。

―この映画をご覧になる方たちへ

『四月の永い夢』を富山県朝日町で上映できることは僕にとって、とても大切なことです。自分自身の命のルーツであり、いま映画を撮っている「心」に多くの影響を与えてきてくれた場所だからです。この映画を通して、朝日町の自然や民家の美しさなどを改めて皆様と一緒に共有できたらこんなに幸せなことはありません。是非、ひとりでも多くの方に劇場という暗闇でこの作品を体験していただければ幸いです。

富山県・朝日町の観光 おすすめスポット

富山県美術館［富山市］
2017年8月にオープンした、「アート」と「デザイン」をつなぐ世界でも初めての美術館。富岩運河環水公園内にあり、子どもが楽しめる「オノマトペの屋上」も備える。

立山黒部アルペンルート［立山町］
標高3000m級の峰々が連なる、北アルプスを貫く日本有数の山岳観光ルート。富山地方鉄道電鉄富山駅から立山駅を経由し、ケーブルカー、高原バスを乗り継ぎ室堂まで約2時間。

黒部峡谷・宇奈月温泉［黒部市］
日本最大級のV字峡を満喫できるトロッコ電車が有名。玄関口となる「宇奈月温泉」のお湯は日本一の透明度といわれ、美肌の湯として人気を集める。

五箇山合掌造り集落［南砺市］
大きな茅葺屋根の家屋が並ぶ集落。1995年には、岐阜県・白川郷とともに世界遺産に登録された。四季折々に魅せる美しい景色が魅力。

ヒスイ海岸［朝日町］
日本の国石の翡翠がひそむ、美しいエメラルドグリーンの海岸。ヒスイガイドと一緒にかわいい石ころとの出会いを楽しめる。海水浴や魚釣りなど一年を通して遊べる海岸。

ACCESS アクセス

- ●東京駅から 北陸新幹線「黒部宇奈月温泉駅」▶最速2時間20分
- ●大阪駅から「黒部宇奈月温泉駅」▶最速3時間25分（金沢駅乗換）
- ●名古屋駅から「黒部宇奈月温泉駅」▶最速3時間12分（米原駅・金沢駅乗換）

黒部宇奈月温泉駅から 朝日町へ
❶あさひまちエクスプレスで直通（要予約・あいのりタクシー）
TEL.0765-82-1171（まちバスセンター）
［Web予約］http://www.kyoto-lab.jp/asahi/rv/rv.php

富山駅から 朝日町へ
❷あいの風とやま鉄道「泊駅」「越中宮崎駅」

- ●羽田空港から「富山きときと空港」（4往復/日）▶約1時間
- ●新千歳空港から「富山きときと空港」（1往復/日）▶約1時間30分

富山きときと空港から 朝日町へ
バス→富山駅→❶もしくは❷参照
レンタカー（45分）→北陸自動車道（新潟方面）「朝日I.C」

- ●東京から 北陸自動車道「朝日I.C」▶約4時間20分
- ●大阪から 名神高速道→北陸自動車道「朝日I.C」▶約4時間40分
- ●名古屋から 東海北陸自動車道→北陸自動車道「朝日I.C」▶約3時間30分

パノラマキルキルで富山に乗る列

観光に関するお問い合わせ／（公社）とやま観光推進機構 Tel.076-441-7722
朝日町観光協会 〒939-0741 富山県下新川郡朝日町泊418 Tel.0765-83-2780 WWW.ASAHI-TABI.COM

発行／富山映画応援委員会 事務局 〒930-0094 富山市安住町2-14（北日本新聞社営業局内）Tel.076-445-3365

四月の永い夢

富山県朝日町 ロケーションマップ

ASAHI LOCATION MAP

- モスクワ国際映画祭 W受賞 国際映画批評家連盟賞 ロシア映画批評家連盟特別表彰
- TAIPEI FILM FESTIVAL 台北電影節 第19回 台北映画祭 正式出品
- 第10回 バンガロール映画祭 正式出品
- さぬき映画祭 第12回 さぬき映画祭 正式出品

2018年5月12日より
［富山］J MAX THEATER とやま
［東京］新宿武蔵野館・立川シネマシティ［神奈川］シネマ・ジャック&ベティ［大阪］シネ・ヌーヴォ［京都］出町座［兵庫］神戸元町映画館
ほか全国公開

朝倉あき　三浦貴大　川崎ゆり子　高橋由美子　青柳文子　福島珠理　森次晃嗣　志賀廣太郎　高橋惠子

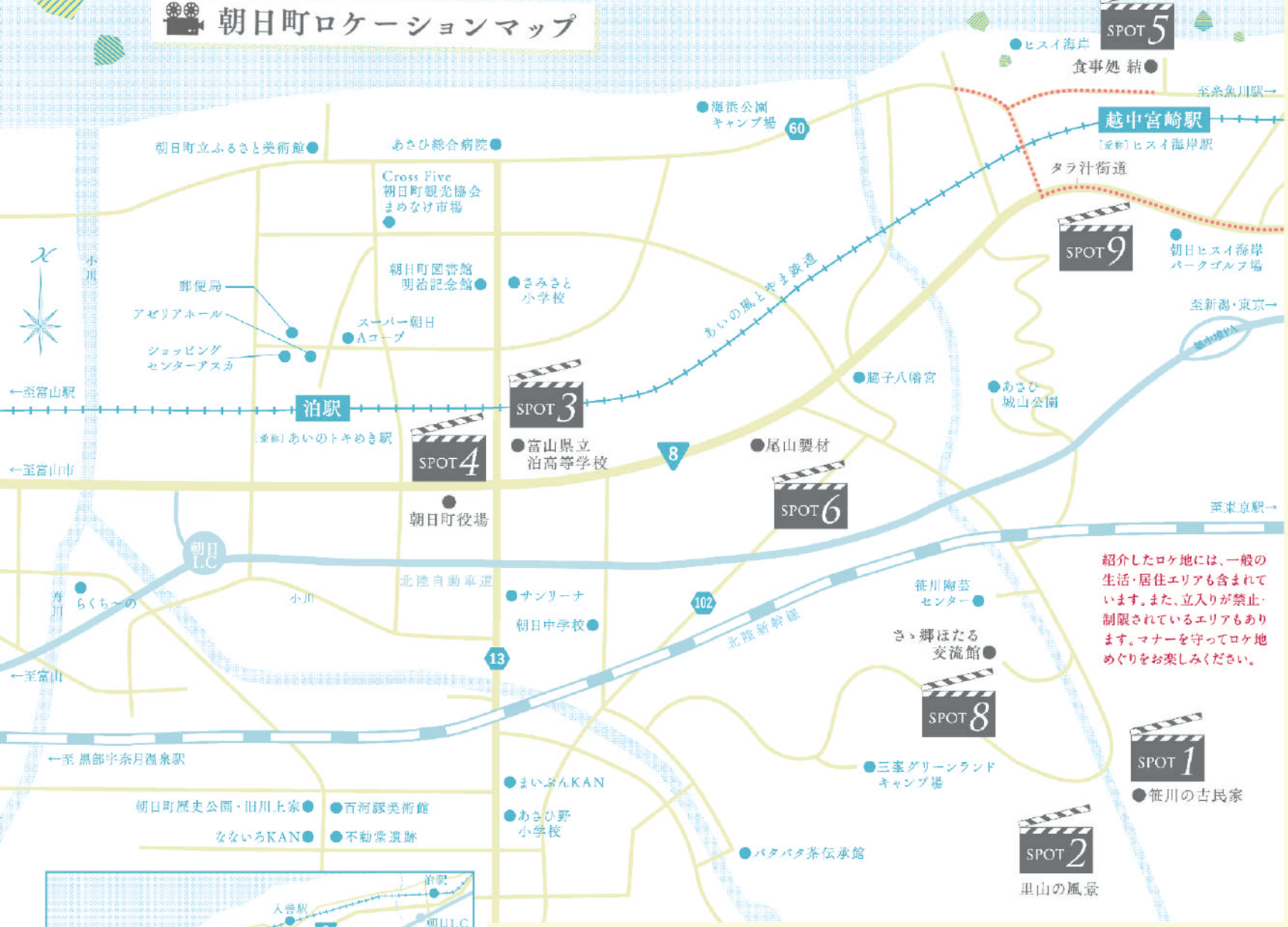
監督・脚本／中川龍太郎

製作総指揮／石川俊一郎　木ノ内 輝　製作／WIT STUDIO　制作／Tokyo New Cinema　配給／ギャガ・プラス
Tokyo New Cinema　WIT STUDIO　GAGA+

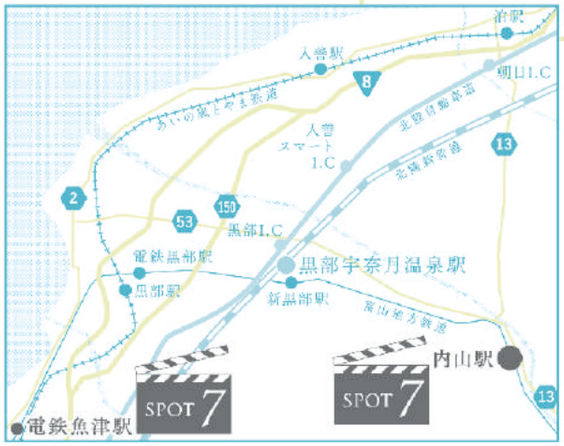
映画 四月の永い夢

亡くなった恋人の実家が朝日町笹川の設定で、初海に届く手紙にも「朝日町笹川」と住所が書かれています。自然の中の大きな古民家、大きな仏壇、家族で囲む食卓。そこには人と人との開かれた暮らしの時間が流れています。

朝日町ロケーションマップ



紹介したロケ地には、一般の生活・居住エリアも含まれています。また、立入りが禁止・制限されているエリアもあります。マナーを守ってロケ地めぐりをお楽しみください。



監督・脚本
中川龍太郎

1990年、神奈川県生まれ。国内の数々のインディペンデント映画祭にて受賞を果たす。初監督作品『Calling』(12)がボストン国際映画祭で最優秀撮影賞受賞。『雨粒の小さな歴史』(12)がニューヨーク市国際映画祭に入選。東京国際映画祭日本映画スプラッシュ部門では『愛の小さな歴史』(14)に続き、『走れ、絶望に追いつかれない速さで』(15)と2年連続の出品を最年少にして果たす。
朝日町にある中川医院の院長の孫。大学時代から朝日町で映画を撮り続けており、映画の上映会や泊高校生との演劇&映画ワークショップなどを毎年開催している。

STORY ストーリー　亡き恋人から届いた手紙。止まったままの私の「時」が動き出す。

3年前に恋人を亡くした27歳の滝本初海。
音楽教師を辞めたままの穏やかな日常は、亡くなった彼からの手紙をきっかけに動き出す。
元教え子との遭遇、染物工場で働く青年からの思いがけない告白。そして心の奥の小さな秘密。
喪失感から緩やかに解放されていく初海の日々が紡がれる。

SPOT 1 笹川の古民家

亡くなった恋人の実家で、母親役の高橋恵子さんが初海の人生を導くアドバイスを残す場面が印象深い。家族だんらんの食卓から、人と人がつながる暮らしのあたたかさが伝わる。

SPOT 2 里山の風景 [笹川]

初海が夜明け前に散歩する、静かで美しい田んぼ道や笹川の橋など、日本の原風景がのこる里山。

SPOT 3 富山県立 泊高等学校

泊高校の図書室や廊下で、舞台芸術部の生徒や先生がエキストラ出演。同校は、県内で唯一「観光ビジネスコース」が設置されている県立高校。

SPOT 4 朝日町役場

朝日町役場商工観光課が亡くなった恋人の妹が働く職場として登場。職員がエキストラ出演しており、ふせんのメモ書きなども、そのまま映り込んでいる。

SPOT 5 食事処 結

初海に本当の笑顔が戻るクライマックス・シーン。店主と泊高校生がバイト役でエキストラ出演した。ヒスイ海岸のすぐ目の前にあり、昭和の雰囲気が残る食堂。

SPOT 6 尾山製材

日々一生懸命に生きる職人の姿が映し出されている。虫喰い楢材を活用したプロダクトや、木工品を長く使うための「みつろうクリーム」開発などに取り組んでいる。

SPOT 7 富山地方鉄道 内山駅・電鉄魚津駅

恋人の実家へ向かう最寄り駅。
母親役の高橋恵子さんが、内山駅までお迎えに。

SPOT 8 さゝ郷 ほたる交流館

地元のおばあちゃん達が、郷土食のシシ鍋や押し寿司、お煮〆などを出演者やスタッフにふるまった。

SPOT 9 タラ汁街道

ヒスイ海岸の国道8号沿いに、郷土食のタラ汁を提供するお店や民宿がズラリと並ぶ。タラ汁は、中川監督と撮影スタッフの大好物。夏場の過酷なロケの間、ドライブインきんかいが、毎日ロケ弁を提供してくれた。

CAST 登場人物紹介

滝本 初海
[朝倉あき]
3年前に恋人を亡くした元教師。蕎麦屋でアルバイトをしている。

志熊藤太郎
[三浦貴大]
染物工場で働く青年。初海に思いを寄せている。

村松 楓
[川崎ゆり子]
初海の元生徒。プロのジャズシンガーを目指している。

忍
[高橋由美子]
蕎麦屋を仕切る、老店主の娘。さり気なく初海の背中を押す。

朋子
[青柳文子]
初海の友人で教師。過去を吹っ切れない初海を心配する。

蕎麦屋の老店主
[森次晃嗣]
初海がアルバイトをしている蕎麦屋の店主。

風間 幸男
[志賀廣太郎]
初海の亡くなった恋人・憲太郎の父。

風間 杏子
[高橋惠子]
初海の亡くなった恋人・憲太郎の母。